

特別活動および総合的な学習の時間の 設計のための事例分析学習の試作

— 防災教育の実践事例を用いて —

古田 紫帆 古田 壮宏*

要 旨

教職課程の科目として「総合的な学習の時間の指導法」が新設されるが、これは学校間で「総合的な学習の時間」の学習成果に差がみられ、教職課程においても「総合的な学習の時間」の指導方法のさらなる理解が求められているためである。総合的な学習の時間は教科書が存在しないために、特別活動の学校行事に基づいて活動構成を行う場合があり、学習が両領域で混同されて実施されていることも少なくない。本資料では、両領域で共通で取り上げられる可能性のあるテーマを用いて、実践論文を比較し、特別活動と総合的な学習の時間の設計の違いを理解するための学習活動を試作する。この学習によって、カリキュラム・マネジメントを意識しながら両領域の学びを関連付けて設計できるようにするための、両領域の位置づけ・設計・展開を考察する学習行為を誘発することが期待できる。本稿では、まず著者らが「防災教育」を事例とした特別活動および総合的な学習の時間の実践研究論文を比較し、展開の違いについて気づきを列挙し、学習指導要領で示されている設計上の留意事項との結びつきを確認した。さらに、この結果を用いて、ワークシートのプロトタイプを作成した。

キーワード：特別活動、総合的な学習の時間、授業設計、事例分析、防災教育

*奈良教育大学

1. 問題提起

1.1 教職科目「総合的な学習の時間の指導法」の新設

平成29年11月に公布された「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令（平成29年文部科学省令第41号）」では、教職課程の質的向上に向けて、新たな枠組みで整理された科目のカテゴリーや追加された要履修科目について示されている。「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について（通知）」では、その概略を整理しているが、教職課程科目の履修に関わる変更事項については、「(2) 履修事項の追加」の項目内で表1のように説明されている。

「(b) 事項の内容を追加したもの」で示されている内容のうち、児童・生徒の学習内容や方法に関わる「情報機器及び教材の活用」・「キャリア教育」・「学校安全への対応」（学校経営に関する項目だが防災教育の学習内容とも関わる）は、特定の教科・領域の指導内容・方法に限定されるものではない。児童・生徒を取り巻く環境における複雑な課題を総合的に扱う学習の重要性が、これまで以上に強調されている。また、その実現のために、「チーム学校」で全教職員が「カリキュラム・マネジメント」の概念に則って学習指導を設計し、「地域と連携」しながら指導・対応する必要がある。

このことは、「(a) 新たに独立した事項を設けたもの」において示されている「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する」指導や「総合的な学習の時間の指導」においても例外ではない。教職科目「総合的な学習の時間の指導法」は、「総合的な学習の時間」の学習成果が、学校によって差がみられることなどから指導方法の理解がさらに求められるようになり、新設されることになった科目である。総合的

表1 新しい教職免許法で示された履修事項の追加

<p>(a) 新たに独立した事項を設けたもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（1単位以上修得） ・総合的な学習の時間の指導法（幼稚園教諭の普通免許状の授与を受ける場合を除く。養護教諭又は栄養教諭の普通免許状の授与を受ける場合にあつては総合的な学習の時間の内容。） <p>(b) 事項の内容を追加したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報機器及び教材の活用（幼稚園教諭の普通免許状の授与を受ける場合の保育内容の指導法、小学校、中学校及び高等学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合の各教科の指導法に追加） ・チーム学校運営への対応 ・学校と地域との連携 ・学校安全への対応 ・カリキュラム・マネジメント ・キャリア教育（小学校、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合）
--

な学習の時間は教科書が存在しないために、特別活動の学校行事に基づいて活動構成を行う場合があり、学習が両領域で混同されて実施されていることが少なくないという報告（山本 2015）もみられるが、このことは、「総合的な学習の時間の指導法」が新設された原因のひとつでもあったのではないかと推測できる。

1.2 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点

特別活動と総合的な学習の時間の目標を学習指導要領から抜粋しながら比較すると、それぞれの教育目的の違いが理解できる。特別活動は集団活動を通して「行動の仕方」や話し合いの技能、「自己実現を図ろうとする態度」の育成を目指しているのに対して、総合的な学習の時間は探究活動を通して「課題の解決に必要な知識及び技能」や自分で「問いを見いだし」情報収集・活用する力、そして「社会に参画しようとする態度」を育成しようとしている（付表1、付表2）。しかしながら、学習内容について学習指導要領の記述内容から比較すると、日常生活の問題・課題や他者との関わりを扱う点で共通している。それぞれの学習内容の取扱に関する記述についても、各教科・領域との関連を図ったり、横断的に課題を設定したりすることが留意点として指摘されていることから、広い視野で内容を捉えつつ、実施領域の役割を意識しながら設計する必要がある。このようにさまざまな教科や領域と関わりをもたせながら学ぶことが可能な内容について、各々の役割を意識した設計を行うということは、教職課程の履修内容で追加された「カリキュラム・マネジメント」（表1）の理解においても重要なことである。

2. 研究目的

以上のことから、「総合的な学習の時間の指導法」で必要な学習のひとつとして、混同されがちな特別活動との学習目的や設計の違いを理解するための学習活動を設定する必要があると考える。

そこで本研究では、両領域で共通で取り上げられる可能性のあるテーマを取り上げながら実践論文を比較し、特別活動と総合的な学習の時間の設計の違いを理解するための学習活動を開発する。具体的には、「防災」をテーマとしながら、両領域での展開の違いを学ぶ活動が設計可能かを検討する。本研究で防災を事例とする理由は2つある。1つ目の理由は、教職課程の履修内容で「学校安全への対応」が追加された（表1）が、この追加項目についても勘案した教育活動を設計できるようになるのではないかと考えたためである。児童・生徒が自分の身を守ることができるようにするためには、環境設定や制度設定の整備だけでなく、「防災教育」を充実させことも重要で

ある。2つ目の理由は、両領域の展開を学ぶための実践報告が比較的入手しやすいテーマではないかと思われるためである。文部科学省の調査研究協力者会議の一つである「防災教育支援に関する懇談会」(第6回目平成19年7月開催)では、防災教育が各教科や特別活動、そして総合的な学習の時間において「特に、地震や津波等の大規模自然災害の被災経験がある地域や、災害の切迫性が高い地域の学校を中心として、特徴的で、かつ優れた取組事例が見られる」と報告されていることから、さまざまな取り組みが行政機関でも認知されていることが伺える。

以上の理由から、本研究では、防災教育を対象としながら、特別活動との展開の違いを学ぶ教材を開発することにする。なお、第一著者は特別活動と総合的な学習の時間に関する教職科目の担当者であり、第二著者は防災教育について研究しているため、両者で教材の協同設計を行うことにした。

3. 研究方法

3.1. 実践研究の比較と教材の試作

先述したように、本研究では、防災教育をテーマとした場合の、特別活動の展開と総合的な学習の時間の展開を理解できる学習活動を試行的に設計することが目的である。両領域の展開の違いを理解するためには、それぞれの領域での展開例を比較し、分析する学習活動が適切ではないかと考えた。そこで、その素材となる具体的な実践事例を取り上げながら、まずは、第一著者と第二著者が学習者の立場になって学習シミュレートを行う。学習シミュレートは、下記の手順に沿って行う。

- ① 防災教育を特別活動で展開した実践事例の報告と、総合的な学習の時間で展開した実践事例の報告を多角的に比較し、表に整理する(比較の枠組みのプロトタイプを作成)。
- ② 完成した表を再度確認し、両領域における展開の違いについてどのような気づきを想定できるかを記述し、学習指導要領で示されている目標や内容の取り扱いに関する記述と関連する部分に下線を引く。
- ③ 両領域における展開の違いに関する気づきの中で、学習指導要領での記述と関連しているものを抽出し、気づいた内容と関連する比較項目を特定する。特定された項目は、重要な気づきを誘発する比較視点とみなし、それらの視点で実践事例を比較できるようなワークシートのプロトタイプを作成する。このことによって、本研究の次の段階として予定している学生による学習試行(プロトタイプの試用)につなげるようにする。

表2 比較対象とした実践研究

領域	執筆者	タイトル	掲載誌など
特別活動	山崎貴志	[特別活動] 家庭・地域と連携した防災教育の自校化に向けた取組—学校と家庭・地域が共に連携し、防災意識を高めるための取組の工夫—	上越教育大学教育実践研究, 第28集, 2018年3月, pp. 199-204
総合的な学習の時間	川真田早苗 村田 守	徳島県吉野川市川田川水害頻発地域の小学校4年生を対象とした総合的な学習の時間における防災教育プログラムの実践	兵庫教育大学 教育実践学論集, 第18号, 2017年3月, pp. 145-155

3.2. 比較対象とする実践報告について

学習シミュレートで比較するために、まず、特別活動で防災教育を展開した事例と、総合的な学習の時間で防災教育を展開した事例を検索した。実践の背景、構想、成果などに渡って整理して記述されている報告が望ましいと考えたため、論文検索エンジン「CiNii」で実践を検索することにした。

「防災」「総合的な学習の時間」をキーワードとして、「本文あり」を条件づけて検索したところ、調査時点（2018年12月時点）で23件ヒットした。また、同様に「防災」「特別活動」をキーワードとして、「本文あり」を条件づけて検索したところ、10件ヒットした。その中で、比較するために、同じ教育課程の実践であること、実践について詳細に記載されているものを抽出した結果、表2の実践を取り上げることにした。なお、今回対象となる実践は、いずれも小学校で行われたものである。さらに、「本文あり」で検索した理由は、学生が自身で論文を入手しやすい状況を担保するためである。

4. 結果

第一著者と第二著者は19の比較項目（表3）について実践を比較した。さらに、比較した結果、違いや共通点について、学生の気づきとして想定できるものを記述したところ、第一著者は10件記述ができ、第二著者は7件記述した。そのうち、学習指導要領と関連する記述はそれぞれ8件、7件であり、いずれも気づいたことの約9割が、学習指導要領の記述内容と関連づいた。

また、それぞれの気づきの中で学習指導要領と関連づいたものを、どの比較項目に基づいて気づいたものであるかを関連づけたところ、第一著者と第二著者のいずれかの気づきと関連づいた比較項目は9項目であり、両者の気づきと関連づいた比較項目は4項目あった。これら13の比較項目は、学生が実践を比較した際においても、特別活動や総合的な学習の時間の設計の枠組みの違いについて気づきを誘発する可能性があると考えられる（「協力者」「学習者が自ら設定した学習課題」などの項目に「＊」を付記している）。そして、抽出された項目を中心に、ワークシートのプロトタイプを作成した（表4）。

表3 防災教育の実践の比較(1) (想定できる・期待する学生の記述)

- ※ 各項目上段は第一著者、下段は第二著者の記述
- ※ 【 】内は関連がある比較項目。関連づいた項目に「*」を付している (第一著者・第二著者両方が関連付けた場合は「**」)
- ※ 「 」は元論文からの引用を表す
- ※ 不明と記載した内容については、著者らが対象論文から読み取れなかったことを表し、必ずしも元論文に記載がないという意味ではない

共通テーマ	防 災	
比較項目	特別活動	総合的な学習の時間
実践・研究の目的*	地域の教材を生かしながら家庭や地域と連携した防災教育を自校化するため	学級担任が開発・実施可能なプログラムによって防災について学ぶ価値を児童に自覚させるため
	「家庭や地域と連携した防災教育を自校化するにあたり、家庭や地域の意識をいかに学校に向け、地域ぐるみの防災教育となる体制づくりを進めるにはどうしたらよいかを明らかにする」(研究の目的)	「水害に適切に対応する能力の基礎を培い、主体的に行動する態度を身に付けさせること」(実践の目的)
対象* (学習者)	全学年児童、保護者	小学4年生(18名)
	全学年	4年生
実施時期	6月16日(地震)、7月22日(洪水)、9月22日(土砂)、10月26日(原子力)、12月15日(雪)、3月11日(津波)	2013年9月7日から11月まで
	6つの災害について、「実施日はそれぞれ過去の災害に関連する日時」。	「9月17日から11月までの総合的な学習の時間」
授業時数	不明	16時間(理科学習6時間、社会科学習6時間、情報発信4時間)
	不明	16
プログラム開発者*	新潟県、赤十字社、地元自治協議会	川真田氏
	「新潟県防災教育プログラム」に基づき著者	筆者
指導者	山崎氏を含む校内教員、消防署、民間企業、地域住民、日本赤十字社	川真田氏
	担任	筆者
協力者**	校内全教員、消防署、民間企業、地域住民、日本赤十字社、地域教育コーディネーター、地区コミュニティ協議会会長	加配教員、発表を聞いてくださった地域住民、総合的な学習の時間の主任、理科主任、社会科主任、研修主任
	保護者 地域教育コーディネーター 地域の住民 笹口地区コミュニティ協議会 JR東日本・新潟市消防署(6学年) 日本赤十字社(5学年) 市役所 中越防災安全推進機構	吉野川市役所 加配教員 地域住民(北島地区の古老)

表3 防災教育の実践の比較(2) (想定できる・期待する学生の記述)

共通テーマ	防 災	
比較項目	特別活動	総合的な学習の時間
学習対象の 災害・学習内容*	県内で起こりうる6つの災害(津波、地震、洪水、土砂、雪、原子力)	子どもの居住地に昔から多発する水害(児童は被害体験がない)について横断的(理科・社会科)に学ぶ <u>理科学習</u> :水害が起こる法則 <u>社会科学習</u> :水害の履歴や特徴 <u>情報発信</u> :水害に対応するための提案
	「新潟県で起こり得る「津波災害」「地震災害」「洪水災害」「土砂災害」「雪災害」「原子力災害」の6つの災害」 学習参観中の避難方法 電車乗車時における避難方法、消火器の利用方法、けが人運搬方法(6学年) 非常時の炊飯方法(5学年)	水害 水害を引き起こす自然現象(<u>理科学習</u>) 水害に関わる地域の問題から、地域固有の問題と他地域にも適用される問題についての調査(<u>社会科学習</u>) 理科学習と社会科学習で得られた内容を融合し、知識の定着を図るために、プレゼンテーションとしてまとめる(<u>情報発信</u>)
学習目標・ 成長プロセス*	不明	<u>理科学習</u> :水害を自分の問題として意識し、水害を引き起こす自然現象について理解する ↓ <u>社会科学習</u> :地域の水害の履歴や特徴を理解する ↓ <u>情報発信</u> :理科学習と社会科学習の内容を融合し、災害に適切に対応しようとする実践力につなげる
	不明	<u>理科学習</u> 「水害を自分の問題として意識し、水害を引き起こす自然現象について理解すること」 <u>社会科学習</u> 「地域の水害の履歴や特徴を理解させること」 <u>地域への情報発信</u> 「理科学習と社会科学習の内容を融合し定着を図り、災害に適切に対応しようとする実践力につなげること」
成長するための 学習活動**	・防災意識を高める保護者参加型避難訓練(地震)(全学年、保護者、参観日) ・新潟県防災教育プログラムを活用した防災学習(全学年) ・公開学習でのプレゼンテーション(浸水・洪水) ・民間企業と消防署合同実施の防災訓練への参加(6年生) ・日本赤十字社との連携による炊飯演習(5年生)	<u>理科学習</u> :運動場に生じた水害による変化の原因を自作機器で測定して究明し、その結果を用いて水害に強い町を構想する。 <u>社会科学習</u> :理科学習で学んだことを生かして地域の問題に気づき、問題意識が近い者同士のグループで課題を設定して調査する。 <u>情報発信</u> :プレゼンテーションの内容を決めて発表の準備を行い、地域に向けて発表したあと、振り返りを行う。
	「新潟県防災教育プログラム」や「青少年赤十字防災教育プログラム まるいのちひろめるぼうさい」を活用した授業 学習参観中の避難訓練 電車乗車時における避難訓練、消火器の利用訓練、けが人運搬訓練(6学年) 自然教室での野外炊事における非常時の炊飯(5学年)	<u>理科学習</u> :グループによる問題解決 <u>社会科学習</u> :グループによる調べ学習 <u>情報発信</u> :グループによる学習成果の発表学習

表3 防災教育の実践の比較(3) (想定できる・期待する学生の記述)

共通テーマ	防 災	
比較項目	特別活動	総合的な学習の時間
学習者が自ら設定した学習課題(探究のための問い)**	不明	「今と昔の集落の場所は違うのだろうか」「冠水する道の高さや家の近くの高さ」「避難場所や避難経路」「地名と水害は関係あるのだろうか」「水害は困ることばかりだったのだろうか」
	不明	<p>【理科学習】:「地面の傾きと水の流れの法則性に反しなせ海拔高度の低い位置に集落を作ったのか」→社会科へ</p> <p>【社会科学習】:「今と昔の集落の場所は違うのだろうか」「冠水する道の高さや家の近くの高さを知りたい」「避難場所や避難経路を知りたい」「地名と水害は関係あるのだろうか」「水害は困ることばかりだったのだろうか」</p>
他教科・領域との関わり*	不明	横断(理科、社会科)
	(社会・理科・家庭科・保健)	理科・社会科(・国語科)
学習形態方法*	学校行事、学級活動 一斉指導	学級での学習、グループによる問題解決学習(理科)調べ学習(社会科)発表
	講義、演習(ワークシート等の活用)	グループワーク、プレゼンテーション
学習環境	教室、周辺地域	教室、運動場、周辺地域
	教室、保護者や地域の住民も参加した授業、学校外(電車、野外教室)	<p>【理科学習】:運動場</p> <p>【社会科学習】:教室、地域(への取材)</p> <p>【情報発信】:保護者や地域の人が参加した教室</p>
学習用具	新潟県防災教育プログラム、赤十字社作成「防災教育プログラム」、地元自治協議会作成資料「自分の命は、自分で守ろう!」、炊飯用ビニル、米、水	地図、地形図、自作の測定機器(水準器)、模型、ワークシート、道路台帳、ハザードマップ、デジタルカメラ、模造紙
	「新潟県防災教育プログラム」「青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのち ひろめるぼうさい」	<p>【理科学習】:水の流れの痕跡写真、気象庁の降水量データ、自作の水準器(ペットボトル、段ボール、ビー玉等)、運動場の模型、ワークシート、水没地域の写真、住宅地図</p> <p>【社会科学習】:住宅地図、運動場の模型、画用紙、地域で取得可能な情報とその問い合わせ先を記した資料、自作水準器、道路台帳、地形図、洪水ハザードマップ、デジタルカメラ、模造紙</p>
観点別評価項目で関わりがあるもの*	技能、思考・判断・表現(主に判断)	知識、思考・判断・表現、関心・意欲
	知識および技能、判断力	知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度

表3 防災教育の実践の比較(4) (想定できる・期待する学生の記述)

共通テーマ	防 災	
比較項目	特別活動	総合的な学習の時間
実践の評価方法	質問紙	質問紙 (プレ・ポスト評価)、振り返りシートの内容と目標の関連付けの分類、振り返りカードから学習目標の実現状況の調査
	不明	「質問紙を用い、本プログラムの実践前・実践後の防災意識の変化」 「第16時に児童が記述した学習の振り返りシートの内容。学習の振り返りシートには、「学習して初めてわかったこと」「今後調べたいこと」「実行したいこと」を記述させた。この記述内容を理科・社会科・情報発信の目標に関連付け分類した。妥当性を担保するため、総合的な学習の時間の主任、理科主任、社会科主任、研修主任と授業者の5名で協議しながら分類した。」 「学習の振り返りカードの記述をもとに理科・社会科・情報発信の目標の実現状況」
実践の成果**	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で防災教育が実施できた。 ・外部団体の資料を活用することは防災教育担当者や学級担任の負担を軽減することにも影響すると考えられる。 ・保護者や地域の防災意識も高揚した。 ・地域と学校が避難訓練などを同時に開催する必要があることが分かった。 	<p>児童が水害を自分の問題として意識し、水害防災を学ぶ価値を自覚できるようになった。また、他の人々の安全に気を配る態度の育成や、家庭、地域の防災力の向上にも効果がみられた。</p>
	<p>「カリキュラムへの位置づけができたことから、担当者の異動や変更などがあっても、この取組は継続していくことができる」 「今までの活動を最大限に活用しながら必要な活動を付け加えていくことや外部団体の資料や活動を活用していくこと」による教職員の負担軽減 地域における防災を考える機会を創出し、「保護者や地域の防災意識も高揚してきている」</p>	<p>「児童に水害を自分の問題として意識させ、水害を引き起こす自然現象について理解させること」 「地域の水害の履歴や特徴を、理科学習で学んだ地面の傾きと水の流れの規則性を用い(原文ママ)説明できるようになったこと」 「情報発信は、理科学習と社会科学習の内容を融合し定着を図り、災害に適切に対応しようとする実践力につなげる効果が高いことが示唆」 「防災に関心をもたせることに効果があった」 「家族の変容・地域の変容に効果があったこと」 「地域の防災力を高め、行政を動かす契機付け」 →「水害を自分の問題として意識させること、水害を引き起こす自然現象、地域の水害の履歴や特徴を理解の理解を図ること(原文ママ)、地域の防災に対して自分ができることを行おうとする態度、防災を学ぶ価値を自覚し学ぼうとする態度を育成できること、家庭・地域の防災力を向上させること」の効果がみられた」</p>
実践の課題*	公開授業への学外からの参加者が少ない。活動のねらいや意義をわかりやすく伝える必要性や成果を便りで通知する必要がある。	具体的な行動に関する知識が不足していた。
	保護者や地域住民の参加者数が少ない	不明

表3 防災教育の実践の比較(5) (想定できる・期待する学生の記述)

共通テーマ	防 災	
比較項目	特別活動	総合的な学習の時間
<p>気づきや疑問 (学習指導要領や学習指導要領解説の内容と関連している部分に下線を引く)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間での展開例は、学級での指導になるので、時間の確保がしやすく、一定期間継続して学ぶように計画することができる。【授業時数】 ・総合的な学習の時間の展開例は、児童にとって身近な災害に絞り込んで探究させている。探究活動の問いは、児童自らの関心をカテゴライズして作成されている(教員が決めた一つの問いを押し付けたものではない)。【学習者が自ら設定した学習課題】 ・総合的な学習の時間の展開例は、学級担任がクラス児童の実態に合わせてプログラムを開発している。実践の目的が、学級担任が一連のプログラムを開発することであり、各時間に関連性をもたせて設計している。一方で、特別活動での展開例は、他者・他機関が開発したものを活用している。防災教育に関わる一連の取組間の関連性が確認できないが、地域との関わりを強くするという目的達成に向けた選択であることがわかる。【実践・研究の目的、プログラム開発者】 ・総合的な学習の時間では、教科横断での指導により、災害のメカニズム(知識)の科学的で深い理解が可能である。【他教科・領域との関わり、観点別評価項目で関わりがあるもの】 ・特別活動は(著者の指摘どおり)行事として全学年に周知し、行事予定に組み込むことで必ず実施できる。【対象、学習形態・方法】 ・特別活動の展開例は、学習集団がさまざまである(全校生徒で学んだり、保護者や地域の人と学んだりする機会もある)【対象】 ・特別活動は他の教員や地域住民等の協力を借りて行うこともできる。他者の協力を得ることができたら学級担任の負担は軽くなる。主任はコーディネーターが必要になる。【協力者、実践の成果】 ・特別活動の展開例は実践的な活動で、訓練やワークショップを通したシミュレーションという形で主体的な行動化に結びつける学習を行っている。このような具体的な行動に関する知識が不足しているという点は、今回取り上げた総合的な学習の時間の実践論文でも指摘しており、この点において、両者は位置づけを切り分けることができる(メカニズムの理解などは、総合などで教科横断的に学び、その学習を生かしながら実際の行動化にむけたシミュレーションは特別活動で行う)【成長のための学習活動、実践の課題】 ・いずれの場合も、地域に影響力を与える実践である。【実践の成果】 ・総合的な学習の時間の展開例は、ある学年を中心に行ったものであるが、これが学校全体にどのような影響を与えたのかは不明。深い学びを学校組織の防災教育に関連付けるためにはどうすればよいか。特別活動は学校全体の視点で実施している。しかし、各学年やイベント間の関連、他の教科や領域との関わりは不明であり、探究的に学びを深める機会が総合的な学習の時間等で持たれる必要があるのかもしれない。【他教科・領域との関わり】 ・カリキュラムに位置づけたことにより、発達段階に応じた防災教育(生活上の諸問題の解決、健康安全・体育行事)が期待できる。【実践の成果】 ・保護者、地域、諸機関など多様な人たちと関わり学ぶ機会が作られている。(多様な他者と協働する集団活動の意義)【協力者、成長するための学習活動】 ・特別活動に位置づけられる様々な活動に、防災教育を関連付けて推進することができそう【(全体)】 ・総合的な学習の時間の取り組みは、新学習指導要領の「実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」などに適合している【実践の成果】 ・防災教育は、特にその学校がある地域で過去に発生した災害を中心に、「現代的な諸問題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」を設定しやすく、また「他の教科等で習得する知識及び技能」とも関連付けがしやすい話題である【学習対象の災害・学習内容、学習目標・成長プロセス】 ・一方で、教員(担任)個人で取り組むのではなく、自治体や諸機関の協力が不可欠であり、どのように保護者や地域を巻き込んでいけるかが課題になるが、子どもたちが取り組む姿を保護者や地域に示すことは一定の効果がある(他者や社会との関わりに関すること)【実践の課題、協力者】 ・グループで取り組むための課題をうまく児童ら自身によって設定できると、「探究的な学習に主体的・協働的に取り組む」ためにより効果的【学習者が自ら設定した学習課題、実践の成果】 	

表4 ワークシートのプロトタイプ

特別活動と総合的な学習の時間の設計の違いを分析しよう

総合的な学習の時間を設計する上で留意すべきことを知るために、同じテーマの学習について、特別活動で展開する場合と、総合的な学習の時間で展開する場合の違いを分析しましょう。

- ① 防災教育に関わる2つの教育実践論文を読みながら、内容を下記の表に整理しましょう。
- ② 防災教育を特別活動で展開した場合と総合的な学習の時間で展開した場合の違いについて、気づいたことを箇条書きで記述しましょう。
- ③ ②と学習指導要領を照合し、学習指導要領で示されている目標や内容の取り扱いに関する説明と関連づくものがある場合は、②の中で関わりがある部分に下線を引きましょう。

分析する論文：
 (特別活動) 山崎貴志「[特別活動] 家庭・地域と連携した防災教育の自校化に向けた取組—学校と家庭・地域が共に連携し、防災意識を高めるための取組の工夫—」上越教育大学教育実践研究、第28集、2018年3月、pp.199-204
 (総合的な学習の時間) 川真田早苗、村田守「徳島県吉野川市川田川水害頻発地域の小学校4年生を対象とした総合的な学習の時間における防災教育プログラムの実践」兵庫教育大学教育実践学論集、第18号、2017年3月、pp.145-155

比較項目	特別活動	総合的な学習の時間
実践・研究の目的		
対象(学習者)		
プログラムや授業を作った人		
協力者		
対象となる災害や学習内容		
学習目標・成長プロセス (児童はどのように成長していくか)		
学習活動		
学習者が自ら設定した学習課題 (探究のための問い)		
他教科・領域との関わり		
学習形態・方法 (一斉、グループなど)		
観点別評価項目で関わりがあるもの		
実践の成果		
今後の課題点		

特別活動で展開した場合と総合的な学習の時間で展開した場合の違いについて気づいたことや疑問点

5. 結論

著者らによる学習シミュレートにおいて、防災教育をテーマとした特別活動と総合的な学習の時間の実践を比較することで得ることができる気づきの多くを、学習指導要領の内容と関連付けることができた。このことから、学生が特別活動と総合的な学習の時間の両方で展開可能なテーマについて実践報告を比較する事例分析型の学習を行うことによって、学習指導要領の内容と関わらせながら異なる2つの領域の展開の違いを学ぶことができる可能性を見出すことができた。すなわち、この学習によって、総合的な学習の時間の位置づけを考察し、カリキュラム・マネジメントを意識しながら学習設計を行うという学習行動を誘発することが期待できる。本稿では、そのための学習ワークシートのプロトタイプ(表4)を開発することができた。

6. 今後の課題

本稿では、事例分析の試行を著者が行いワークシートのプロトタイプを開発したが、これを用いた学生による事例分析の試行を行う必要がある。そして、その試行結果を踏まえてワークシートを再度改良し、実際の授業で学生に提供できるようにする。

参考文献

- [1] 文部科学省 (2017) 「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令 (平成29年文部科学省令第41号)」 http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/_icsFiles/afieldfile/2017/11/30/1313987_2_1.pdf (2018年11月アクセス)
- [2] 文部科学省 (2017) 「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令の公布について (通知)」 http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1398706.htm (2018年11月アクセス)
- [3] 山本景一・藤田英治 (2015) 「社会的実践力を育む特別活動 —生活科や総合的な学習の時間との関連を図った特別活動のあり方—」, プール学院大学研究紀要, 第56号, pp. 247-260
- [4] 文部科学省 (2017) 「学習指導要領 (平成29年3月告示)」 (小学校, 中学校, 高等学校) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm (2018年11月アクセス)
- [5] 文部科学省・防災教育支援に関する懇談会 (第6回目平成19年7月開催) (2017) 「防災教育の現状」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kaihatu/006/shiryo/attach/1367197.htm (2018年11月アクセス)
- [6] 山崎貴志 (2018) 「[特別活動] 家庭・地域と連携した防災教育の自校化に向けた取組—学校と家庭・地域が共に連携し、防災意識を高めるための取組の工夫—」 上越教育大学教育実践研究, 第28集, pp. 199-204
- [7] 川真田早苗, 村田守 (2017) 「徳島県吉野川市川田川水害頻発地域の小学校4年生を対象とした総合的な学習の時間における防災教育プログラムの実践」 兵庫教育大学教育実践学論集, 第18号, pp. 145-155

付表1 平成29年3月に公示された小学校・中学校の学習指導要領の目標と、
平成30年3月に公示された高等学校の学習指導要領の目標

	特別活動	総合的な学習の時間（小学校、中学校） 総合的な探究の時間（高等学校）
小学校 中学校	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>
高等学校	<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。</p> <p>(3) 自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>	<p>探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。</p>

付表2 小学校における各領域の学習内容の比較

	第6章 特別活動	第5章 総合的な学習の時間
小学校	<p>第2 各活動・学校行事の目標及び内容</p> <p>学級活動</p> <p>(1) 学級や学校における生活づくりへの参画</p> <p>(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長および健康安全</p> <p>(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現</p> <p>児童会活動</p> <p>(1) 児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営</p> <p>(2) 異年齢集団による交流</p> <p>(3) 学校行事への協力</p> <p>クラブ活動</p> <p>(1) クラブの組織づくりとクラブ活動の計画や運営</p> <p>(2) クラブを楽しむ活動</p> <p>(3) クラブの成果の発表</p> <p>学校行事</p> <p>(1) 儀式的行事</p> <p>(2) 文化的行事</p> <p>(3) 健康安全・体育的行事</p> <p>(4) 遠足・集団宿泊的行事</p> <p>(5) 勤労生産・奉仕的行事</p> <p>第3 指導計画の作成と内容の取り扱い</p> <p>1 (2) (中略) 内容相互及び各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図り、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、過程や地域の人々との連携、社会教育施設等の活動などを工夫すること。</p>	<p>第2 各学校において定める目標及び内容</p> <p>3 各学校において定める目標及び内容の取り扱い</p> <p>(中略)</p> <p>(3) 各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。</p> <p>(中略)</p> <p>(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸問題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題等を踏まえて設定すること。</p> <p>(6) 探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。</p> <p>ア. 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。</p> <p>イ. 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。</p> <p>ウ. 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。</p>